

平成24年度病害虫発生予察注意報第2号

平成24年6月15日
愛 知 県

作物名：果樹（モモ、ナシ、ブドウ、カキ、カンキツ）

病害虫名：カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 平年並
- 3 発生程度 やや多い
- 4 注意報発令の根拠

- (1) チャバネアオカメムシの越冬量調査を行った結果、平均越冬成虫密度は0.80頭/m²で、越冬成虫密度がやや高かった平成16年、平成18年、平成20年と同等であった（図1）。
- (2) 豊橋市内の予察灯では、6月第2半旬にチャバネアオカメムシが平年の3.3倍（35頭、平年10.5頭）誘殺された（図2）。
- (3) 果樹園への飛来が豊橋市、豊田市などで確認されており、一部のナシ園では被害も確認されている。今後、夜温の上昇とともに活動がさらに活発になり、被害の拡大が予測される。

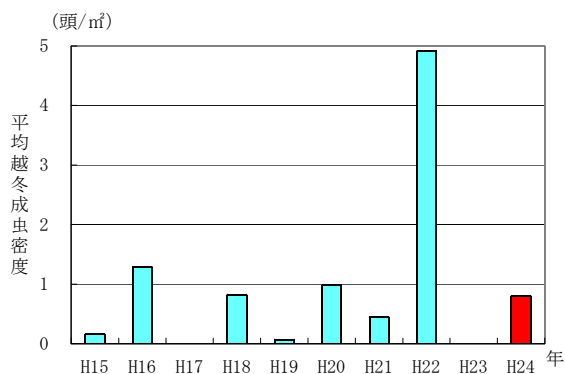


図1 チャバネアオカメムシ越冬成虫密度の年次変動

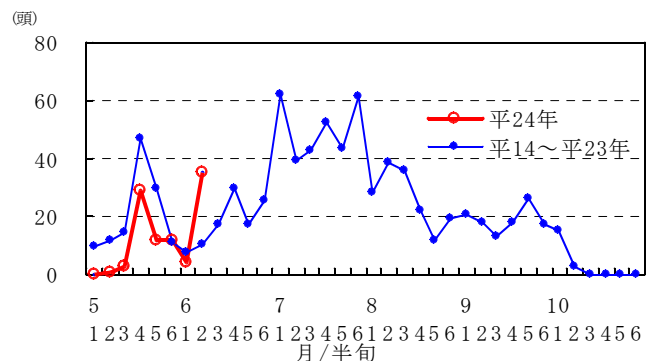


図2 予察灯によるチャバネアオカメムシ誘殺状況（豊橋市）

5 防除対策

- (1) カメムシ類は局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、被害の発生状況は園地間差が大きい。過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意する。
- (2) 越冬成虫密度が高い年は飛来が長期間続くので、飛来を確認したら、次表を参考に残効の長いネオニコチノイド系農薬またはピレスロイド系農薬を散布する。
- (3) モモ、ナシ、ブドウなどで袋がけを行う場合は、なるべく早く行う。
- (4) 農薬の散布に当たっては、他の農作物や人畜に害を及ぼさないよう飛散防止に努める。
- (5) 農薬はラベル表示事項を守り使用する。

表 カメムシ類に対する主な農薬と使用基準

作物名	農薬名	系統	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
モモ	アドマイヤー水和剤	ネオ	1000倍	収穫3日前まで	2回以内
	MR. ジョーカー水和剤	ピレ	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
ナシ	MR. ジョーカー水和剤	ピレ	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	アドマイヤー水和剤	ネオ	1000倍	収穫3日前まで	2回以内
	テルスター水和剤	ピレ	1000～2000倍	収穫前日まで	2回以内
	ダントツ水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	スカウトフロアブル	ピレ	1500倍	収穫前日まで	5回以内
ブドウ	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫7日前まで	2回以内
カキ	テルスター水和剤	ピレ	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	MR. ジョーカー水和剤	ピレ	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	ダントツ水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内
	アドマイヤー水和剤	ネオ	1000倍	収穫7日前まで	3回以内
	スカウトフロアブル	ピレ	1500倍	収穫7日前まで	5回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
カンキツ	MR. ジョーカー水和剤	ピレ	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	モスピラン水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫14日前まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内
	アグロスリン水和剤	ピレ	2000倍	収穫7日前まで	5回以内
	テルスター水和剤	ピレ	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内

注) 系統の「ネオ」はネオニコチノイド系、「ピレ」はピレスロイド系であることを示す。

6 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話: 0561-62-0085 (内線471)